

令和8年4月1日

立教189年

4月号
第643号

宇(う)仁

発行所

天理教宇仁大教会
〒677-0015 西脇市西脇770-4
電話 0795(22)4066番
FAX 0795(22)4072番
unigrandchurch@yahoo.co.jp

4月19日(日) 天理教婦人会第108回総会

4月29日(祝) 全教一斉ひのきしんデー



おどろう?つくろう?マツケンサンバⅡ in 宇仁大教会

散歩道

屋外に出ると日差しや匂いに季節の移り変わりをを感じるようになりました。春は別れと出会いの季節と言われていますが、大人になってから何十年も経つと、繰り返す日々の延長に過ぎないような気がします。でもふとした瞬間に昔の記憶が甦る事があります。

テレビから流れる卒業ソングの歌詞が、自分でもびっくりするくらいスラスラと口から出てきた瞬間に、その曲が流行っていた当時の情景や友人の顔が浮かんできて、何とも言えない気持ちになりました。これがエモいというやつか?みんなどうしているのかなあ。

お母さんのおなかにいる時から出直す直前まで、一番長く働くのが聴覚だそうです。聴く言葉や音楽によって、人は優しくなったり攻撃的になったりもします。自分の口から出た言葉でさえも、自分に影響を与えます。

誰かの記憶にも自分が残るとするならば、どんな声をかけましょうか。願わくば良い方の思い出として残ってほしいものです。

一理塚(特別編)

～リヤカーを引いてゴミ拾い日本一周！三年にわたる歩き旅の軌跡～

リアカーを引きゴミ拾いながら日本一周した二人の男女を皆様はご存知でしょうか。TVで取り上げられたこともあり知っているという人もあるかもしれません。今回は一理塚特別編としてショウキ（藪根頌己：日下分教会用木）とアキのインタビューをお届けします。

編集部：約二年十一ヶ月にわたる日本一周の歩き旅。お二人が旅に出たきっかけから教えてください。

ショウキ：十代の頃から旅に出たいという思いはあったのですが、働き出してからでは実現できずにいました。そんな中、コロナ禍で仕事のやりがいがなくなっていた時期に、登山でアキと出会ったんです。彼女はコロナの影響で海外に行けなくなっていて、「日本で何かすることないかな」と話していたので僕のほうから旅に誘いました。

アキ：私は最初、彼が本気だとは思ってなくて、軽い感じで「行く」と返事をしたんです。

編集部：日本一周の手段として「歩き」を選び、さらに「ゴミ拾い」をしながら進むというスタイルはどうやって決まったのでしょうか？

ショウキ：ショウキの中では「日本一周＝歩き」という固定観念があり、歩き以外の選択肢は一切思い浮かびませんでした。中高生の時に『探偵！ナイトスクープ』で歩いて旅をしている人を見たのがきっかけです。

アキ：歩きはしんどいので私は車を提案したのですが、彼はエンジンを使わないと拒んで。だったら「荷物を全部持ってくれるならついていく」という交換条件を出しました。

ショウキ：二人分のリュックを背負うのは厳しいのでリヤカーを引くことになり、「これを使って何かできることはないか」と話し合いました。僕は過去のボーイスカウトの経験から、日本には見えないところにゴミがたくさん落ちている現状を知っていたので、どうしてもゴミ拾いがしたくて、その意志は絶対に曲げませんでした。

編集部：実際にゴミ拾いをしながら歩いてみて、心境の変化はありましたか？

ショウキ：最初は綺麗にすることが目的でしたが、SNSを通じて「ゴミを捨てるのをやめました」といった連絡をいただき、誰かに良い影響を与えられるようになればと思うようになりました。

編集部：旅の中で印象に残っている地域や出来事を教えてください。

ショウキ：良かったのは静岡県です。僕たちは不審者のように見えたはずなのに、声をかけてくれたり家に招いてくれたりして、本当に人間性が温かいと感じました。逆に一番しんどかったのも静岡で、旧東海道のバイパスを回避するために通った坂が、壁に見えるほどの激坂で本当にきつかったです。

アキ：私は歩きだったからこそ、県民性や方言、食文化の違いを深く知れたことが一番楽しかったです。旅の中では大変なこともありましたが、天理教の教会などでも宿泊させていただき、とてもお世話になりました。

編集部：歩き旅を終えてから現在は、どのような活動をされているのでしょうか？

ショウキ：お世話になった方々へのお礼参りをメインにしています。また、マイクロバスを購入してDIYし、旅人をもてなせるゲストスペースを作りました。最近、ようやく旅人の方に泊まってもらうことができ、目標としていたスタイルが形になってきました。

編集部：今後の目標や、この記事を読んでいる方に伝えたいことはありますか？

ショウキ：来年は少し働いて蓄えを作り、またいつか旅に出たいと思っています。僕たちの姿を見て、やりたいことができずに悶々としている人の何か一步を踏み出すきっかけになれば嬉しいです。

※インタビュー記事では書ききれない数々のエピソード。そんな二人の旅が一冊の書籍となっています。

下のQRコードからダウンロードできます。パソコンやスマホの操作が苦手な方はコピーをお渡ししますので編集部にご連絡くださいませ。



こちらのQRコードから
ダウンロードして下さい



おどろう!!つくろう!!

マツケンサンバⅡ

二月二十二日(日)大教会におきまして、マツケン棒を作るという謎の集まりがありました。

これは少年会総会のお楽しみ行事として、ウーニーバンドの演奏に合わせて、みんなにマツケンサンバⅡを躍らせようという企みを成功させるため、その小道具として、マツケンの後ろで踊っているお姉さま方の持つ棒(通称マツケン棒)を大量に生産しようというもので、当日は約二十名の参加がありました。

この日のために各教会より数十本のラップの芯が集められ、そこに大人も子供も寄ってたかってキラキラの紙を取り付け、オリジナルマツケン棒を製造していきました。

この原稿入稿時には総会の本番がどうなったのかは定かではありませんが、楽しんで踊ってもらえてたらいいなと思います。

皆さんご協力ありがとうございました。

『宇仁会報に見る大教会史』 第96回

⑥平成という時代

(9)

おぢばがえりを中心に動いた教祖百十年祭の年が終わり、明くる平成九年は立教百六十年の年となる。

この年の宇仁会報一月号(第二九二号)の年頭挨拶で、大教会長様は、

「我が身思案よりも、如何にして神様に働いて頂けるか、如何に神様に先回りをして、おたすけて頂けるかを、よく思案して日々の喜び一筋につとめてこそ、心の成人に繋がり、ひいてはお預かりしている教会の充実に繋がる(中略)。

お互いに今までの通り方、つとめ方を各自が大いに反省して、日々うまずたゆまず努力することが重要であり、それが百十年祭をつとめ終えた今、次の塚を目指す第一歩となるのではないかと思います。」と述べられている。

この年は『元をたずねて一手一つ』をスローガンに、様々な講習会がおぢばや大教会を会場に実施されることになる。

まず一月末に、本部員や直属教会長を対象に第一次講習会が親里で行われ、続いて二月から四月まで各直属教会にて第二次講習会、更に五月二十七日親里で全教会長を対象に第三次講習会が開催された。

八月からは、二十歳から四十歳までの教会長子弟・子女及びその配偶者を対象に「後継者講習会」がおぢばで始まった。これは二泊三日のスケジュールで、明くる年の三月まで実に二十五次に亘って実施されている。

宇仁では、二月九日に第二次講習会を開催。第一講と第四講を仲野芳雄本部員が、第二講・第三講を大教会長がつとめられた。この内容は、宇仁会報第二九四号・二九五号の二回に分けて掲載されている。

婦人会より

◇大教会炊事当番

4月 神福A

5月 直 属

6月 神福B

よろしく

お願いします

「かしの・かりもの」を心に一手一つにひのきしん

4月29日(水・祝)

立教189年

全教一斉ひのきしんデー

会場は「教区・支部情報ねっと」でご確認いただけます

おぢば通信
二月のうごき

◎初席者

貴 船 横 山 龍
兵庫中央 笹 倉 里 香

◎修養科修了

國 延 笹 倉 百 恵

◎教会長資格講習会修了

◎教会長資格検定合格

箸 三 門 今 中 隆 之
◎二月帰参者 一二四名
(詰所調べ)

四月行事予定表

9日 婦人会例会

大教会第一回布教実働日

13日 青年会例会

大教会第二回布教実働日

15日 教祖誕生祭

天理教婦人会

18日 第百八回総会

少年会例会

22日 大教会月次祭

午前十時三十分執行

大教会第三回布教実働日

教会長夫妻研修会

本部月次祭

午前九時執行

29日 全教一斉ひのきしんデー